

横浜中央教会設立25周年

C. K

横浜中央教会は来年7月で、西口教会設立から数えて25年目になります。25周年というと半端な数だと思われる方もいますが、世紀の四分の一、すなわち四半世紀を指します。

横浜にもう一つの教会をとの願いの下、東京教会の第二次横浜伝道が形を取り始めたのは、1978年12月17日14時から横浜駅西目の駅ビルに在った、貸室で催されたクリスマス集会からです。それから、1984年に東京教会定期会員総会において、[第二次横浜伝道を（東京教会の）三十周年記念事業]とする決議がなされ、私たちの教会が東京教会横浜西口伝道所として伝道活動を本格的に始めました。

1988年7月10日に教会設立式が行われ、小会成立と共に横浜西口設立宣言の趣旨に則り教会形成をおこなう決意が教会員全員の気持ちに漲って居た。

1955年秋から1997年春まで無牧の状態であった。

新しい牧師の就任により、教会活動も再び活発となる。

教会設立当初から借用していた、横浜駅西口ほど近い、小さな貸ビルを出て、現在地に在ったうどん屋と眼鏡屋の二軒を購入し眼鏡屋の一階部分を礼拝堂として使用し、うどん屋の部分を駐車場として用いる。この時から、新会堂の建設話があり、現会堂が竣工完成したのは、2001年7月半ばであった。礼拝に用いていた古屋も取り壊す事になり、2000年7月から、礼拝場所を関東学院中学のテンネ礼拝堂を主に借りて、2001年7月初旬まで礼拝を守る。会堂建設の話が出てくる頃に教会名の変更話が持ち上がり、横浜西口教会から横浜中央教会へと変える（2000年3月）。

この様に大雑把に歴史を振り返っても、イスラエルの民が歩んだのと同じ様な有様です。萌芽期から数え約40年、教会設立から来年で25年、しがたない私共を立て、導かれた神様の憐れみ、慈しみ、に依る事を日々覚えています。

この25年を期し、主のお守りと導きを感謝する、計画を教会全体で来年の前半中に考え来年の後半からおこなうべきではないかという思いを持っています。具体的には、教会員の全員がこの四半世紀の恵みへの感謝をどの様に表すかです。

具体例 ①入地に教会学校用の家を建てる。 ②オルガンを購入する。等。

マリアは思いをめぐらせた

N. K

今年もクリスマスの季節がやってきました。今年の夏はとりわけ暑く、9月になっても真夏のような暑さが続いたときは、今年が秋が来ないかもしれないとすら思いました。しかし、時が経てばちゃんと涼しくなり、もう今はすっかり寒くなり、今年もアドベントを迎えています。季節がめぐるということは本当に不思議なことです。

クリスマスには、歴史上たった一度の御子の誕生という二千数十年前の出来事と、私たちそれぞれに訪れるクリスマスという二つの側面があり、どちらも神様の素晴らしいプレゼントだと私は考えています。

私のクリスマスの思い出は庭にあった樅の木です。小学校低学年のころだったと思います。鉢植えの樅の木を親が買ってきました。狭い家にも納まるような小ぶりの樅の木でしたが、クリスマスの季節が終わると、翌年まで庭に植えかえていました。こうして何年もクリスマスツリーを楽しむことができる予定だったのでしょうが、樅の木は予想に反して急速に大きくなり、飾り付けどころか、部屋の中に運び込むことも難しい大きさになってしまいました。そして次第にクリスマスとは関係がなくなり、単なる庭の木になってしまいました。

でもあのころの生活は今でもなつかしい思い出です。風が吹けば家の中にも風が吹き、雨が降れば天井からホクホクと雨もりがするという古くて粗末な家に家族が額を寄せ合って暮らしていました。今も懐かしく思い出します。今の暮らしは昔に比べて圧倒的に豊かになりましたが、今わが家にいる子供たちにクリスマスの豊かな思い出を提供できているのかと問われると、私には自信がありません。

「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思いめぐらしていた」(ルカ2章19節)

ルカ福音書2章のクリスマス記事の中で、ここがもっとも私には強く印象に残ります。

マリアは、天使のお告げから、馬小屋での出産まで驚きと戸惑いの連続であったはずです。羊飼いや博士の来訪も驚きであったでしょう。しかし、信仰深く賢いマリアは、「これらの出来事をすべて心に納めて、思いめぐらしていた」というのです。この態度に私は深く心を揺さぶられます。

私たちの周りには今年も多くの出来事が起きました。嬉しいこともあったでしょうし、悲しいこともあったと思います。満足を得られたこともあったでしょうし、納得できないこともあったに違いありません。しかし、私たちはそれらすべてを神様から与えていただいた恵みと考え、心に納め、神様の御旨がどこにあるのかを思いめぐらせるべきでありましょう。私はクリスマスが来るたびにそんなことを考えます。

育児雑記

A. E

早いもので、我が家のお姫様(おしめ様)、Mは1歳7ヶ月になりました。みなさん同じなのでしょうが、初めての育児は、こんなに大変な仕事か他にがあるのかと思うほどでした。いろんなことに四苦八苦する中、出口がないように思えて、鬱になってしまう人がいるのもよくわかるような気がしていました。でも、双子ちゃんや母子家庭など、もっと大変な場合もあるじゃないか、と考えることができるようになってきたのは、子どもが少し成長してゆとりができてきたためだと思います。何よりずっと子どもの側にいてその成長を見守ることができるのはとても楽しく幸せなことです。最近は、思わず吹き出してしまうような面白いことが沢山あります。

子どもの誕生に合わせて、義父からお手紙をもらいました(他教派ですがクリスチャンです)。いつも胸に刻んでおきたいと思うようなお手紙でした。一部抜粋します。

『例え生まれたばかりの赤ん坊でも、人格の尊厳は、神直属の独立です。新しく出生した人物に、どのような天職を神は負わせ給もって居らるるか、これは容易にわかるものではありません。この意味からも養育の責任は、その心身を健全に、神の御期待に呼応して、公務と心得て、決して私情を以て立ち向かうべきではありません。日々祈りを以て誤りなく育成するに、必要の義務を遂行してください。』

どうしても我が子、我が子と力が入ってしまいがちなのですが、神様の子どもと思えば、こんなに頼もしいことはありません。神様が育ててくださるのです。とはいえ親の責任は重大で、神様に向かってちゃんと育てられるようにサポートしていかなばと思いません。

娘は、少しずつ「赤ちゃん」を卒業しようとしています。乳飲み子の頃は自分の足で歩けるようになるなんて想像もできませんでしたが、今や階段の練習中です。自我も芽生えてきて反抗的になることもあり、そんな時は親として試されているような修行のように感じることもあります。けれども、意味のある言葉を話すようになり喜怒哀楽や表情が豊かになってきて、純粹に可愛らしくなってきました。お散歩や公園遊びなど外に出るのが好きで、空や雲を見ては「うわあ〜！」と喜び、風が吹けば両手を広げて受け止めようとします(まるで舞台女優のような仕草です)。木々の葉も落ち葉も、目にとまるたびに「(は)つは！」と触りに行くし、鳥や動物も大好き。全ての背後にいらっしゃる神様の存在を、まずは伝えていけたらと思っています。彼女の人生は始まったばかりでこの先色々なことがあると思いますし、同時に私自身も新たなチャレンジを経験することと思いますが、時に応じて親として果たすべきことを過不足なくやっていけるよう、必要な知恵と力を与えてくださるよう、その中で自分自身も成長させていただけますよう神様にお祈りしつつ頑張っていきたいと思っています。